

# Anthem

## DREAM

**The worlds first multi-mode, multi-purpose audio production and mixing platform.**



# FAIRLIGHT

# Anthem DREAM

## Introducing Anthem

1台のミキシングコントロールサーフェースでこれほど柔軟な操作性をもち処理能力の高いものではありませんでした。プロフェッショナルなレコーディング/ミキシングスタジオのための構造基盤技術革新で、Anthemはマルチコンフィギュア可能なデジタルオーディオコンソールで、オーディオレコーディング、ミキシング、オートメーション、エディティング機能すべてが1台のパワフルなコンソールにまとめられています。Anthemには従来の分離型レコーディングコンソールを非常に注意深く複製したもの、従来型インラインミキシングコンソール、世界で普及しているポストプロダクションコンソールの3つのコンフィギュレーションがあります。Anthemは今日のマルチメディアクリエイターに3つのコンソールを1台で供給します。

**Featuring Fairlight's legendary sound quality and performance, Anthem allows you to diversify your business, secure your investment and safeguard your returns.**



オプションの45度ウェッジをとりつけた7ベイコンフィギュレーション

## 3コンソール一体型

Anthemにはプリセットミキシングパラダイムがオペレーターに用意されておりセッションを始めるユーザーがどれかを選択することができるようになっています。各コンフィギュレーションは仕事を手軽にベストサポートするシステムでユーザーにパワーを与えます。Anthemの設計はポストプロダクションミキシング、フィルム/テレビ/広告のレコーディングと同様に音楽のトラックレイオレーション、音楽ミックスダウン、マスタリング作業をサポートしています。

Anthemの心臓部はミキシングコンソールとマルチトラックレコーダーの組み合わせです。オーディオプロフェッショナルがコンソールを特定の作業に手軽に最適化するため、適正モードにアサインする3つのモードがあります。

Anthemの完全装備された各チャンネルは8バンドのパラメトリックEQ、コンプレッサのある3ステージダイナミクスプロセッサ、ゲート、エキスパンダー、リミッター、12のオグジュアリーセンドが装備されています。さらに、すべてのチャンネルとミックスバスはモノから最大7.1サラウンドまでのいずれかのフォーマットにも対応可能です。AnthemはまたSteinbergのようなさまざまなVSTデベロッパーまたはCreamwareの低潜在DSPサポートプラグインのようなサードパーティのプラグインのセットを統合することもできます。



## 伝統的スプリットコンソールモード

スプリットモードはユーザーに伝統的なスプリットデスク仕様を思わせ、レコーディング目的に便利です。スプリットモードは48の完全装備された入力とそれぞれにレコーディングと再生トラックに関連して172の完全装備されたモニターリターンとともに合計220チャンネル装備されています。このモードでは、オペレーターは柔軟にコントロールパネルのもの（フェーダーやエンコーダーセクション）を入力パスとトラックリターンにアサイン（マップ）することができハードウェアを有効に使いこなすことができます。「フェーダーセット」ボタンを使って、ユーザーは使用可能なすべてのチャンネルにわたるページに素早くアクセスできます。

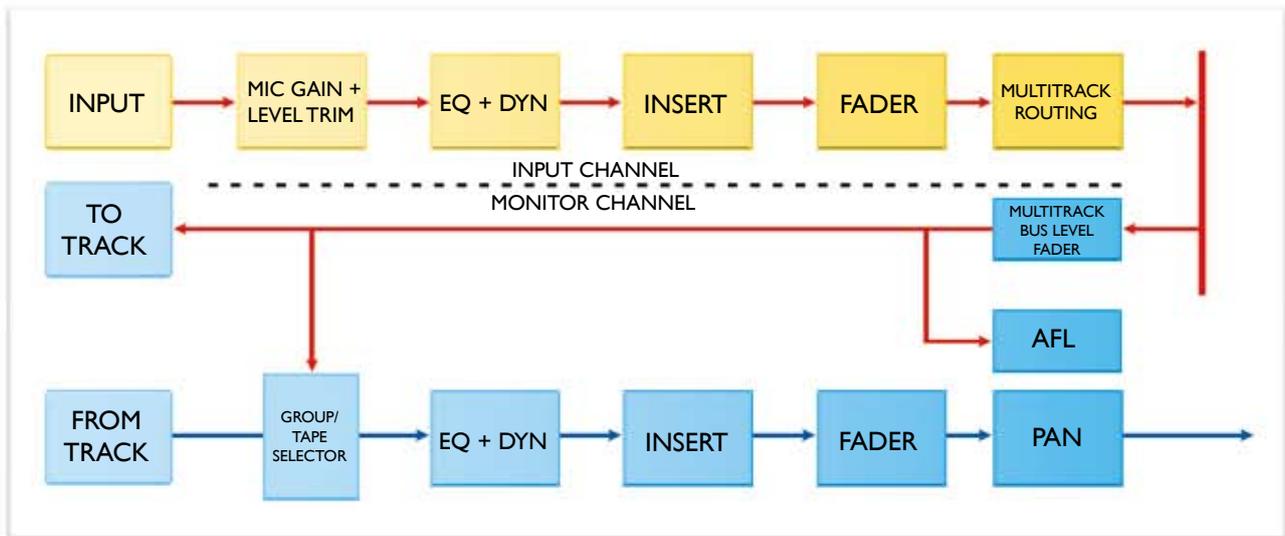
## クラシックインラインモード

2つ目の操作モードはインラインミキシングデスクフォーマットを基本にしています。Anthemのインラインモードは96ロングフェーダーと96ショートフェーダー（合計192チャンネル）をサポートします。しかし「伝統的な」インラインデスクと異なり、ショートフェーダー（インプット）とロングフェーダー（モニター）は、8バンドEQと3ステージダイナミクスで完全なチャンネル処理を含みます。Anthemのインラインモードは他の「sonic flavour」をスプリットモードに提供し、特徴のあるクラシックアナログインラインデスクをもたらし、トップミキサーに好まれるインライン操作スタイルを提供します。

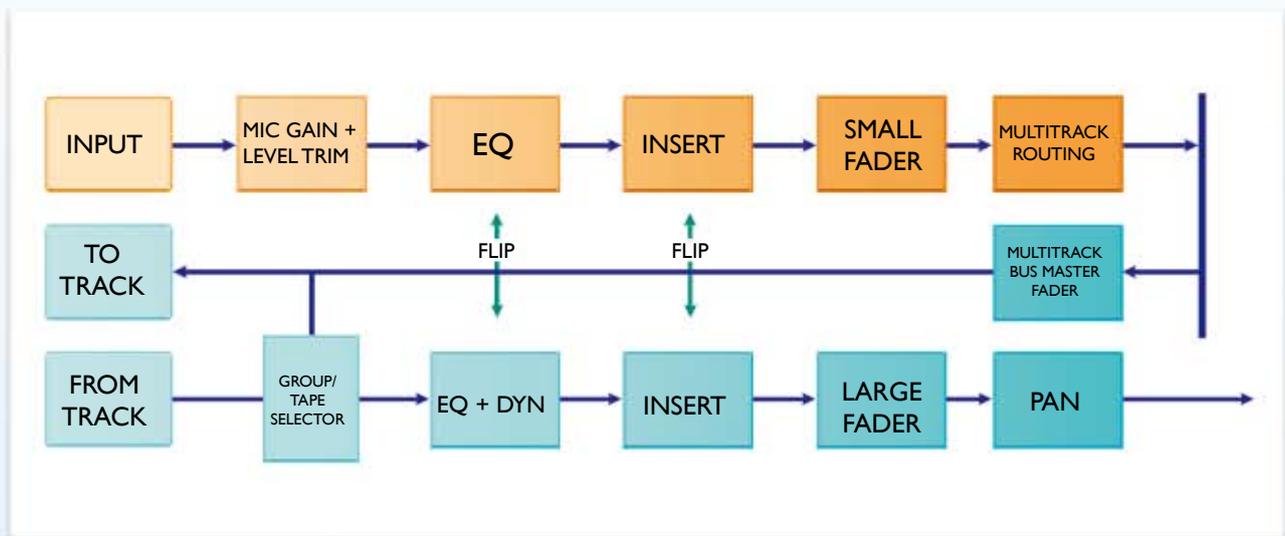
## Constellationモード

3つ目のモードConstellationは、フェアライトの業界で認められたポストプロダクション技術が盛り込まれています。Constellationモードはミックスシステムの準備やバス対バスミキシングのためにサブバスシステムに完全アクセスすることができます。また正確な8バンドEQとダイナミクスがあり、放送や映画やテレビのミキシングに必要な外科的特徴を提供します。すべてのコンソールモードはオプションの統合されたノンリニアHD Pyxisトラックビデオで、フェアライトのパワフルなエディティングツールへのアクセスを含みます。Anthemはモード間の行き来を瞬時に行うことができ、ビジネスチャンスを増やし、新しいレベルのスタジオ環境の柔軟性をもたらします。

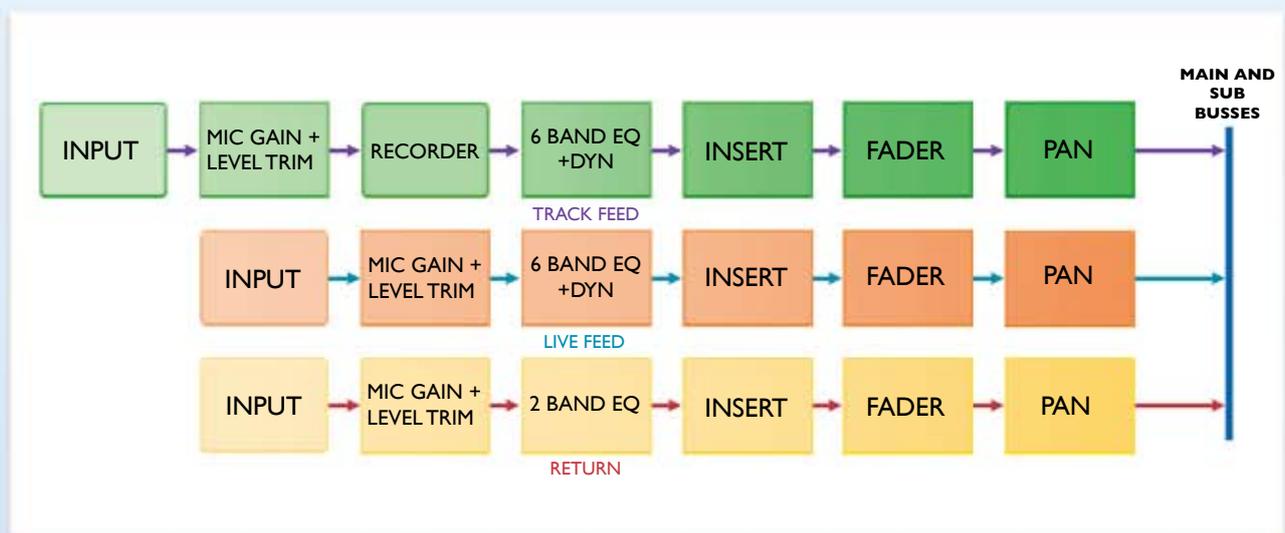
# Anthem SIGNAL FLOW



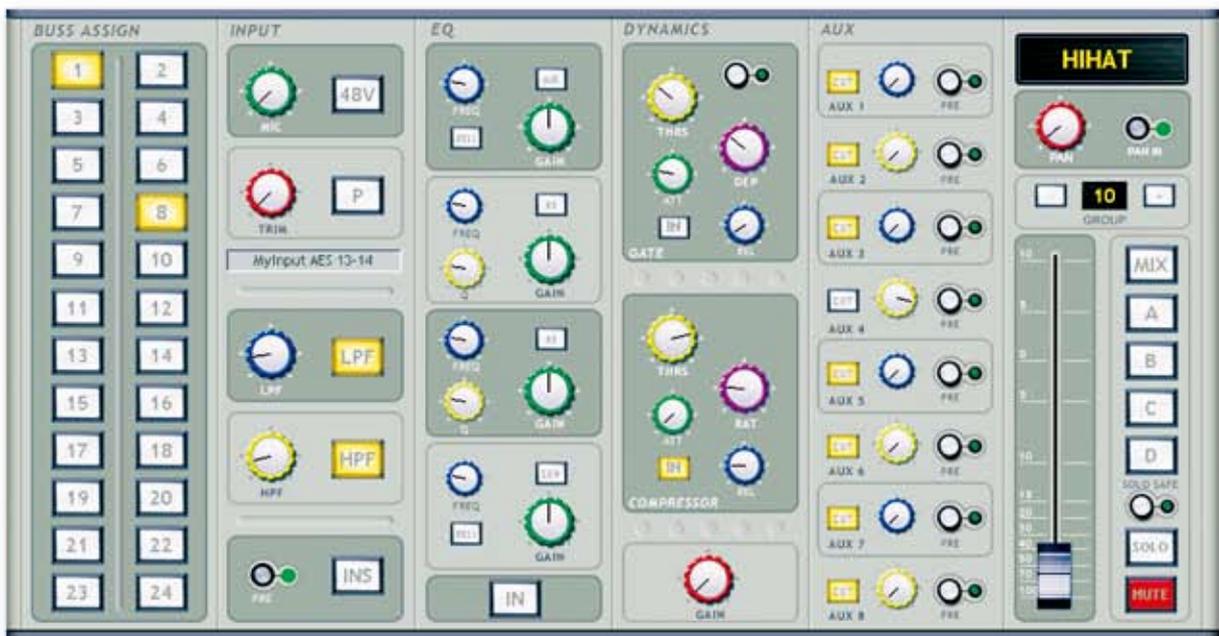
**Traditional split mode**



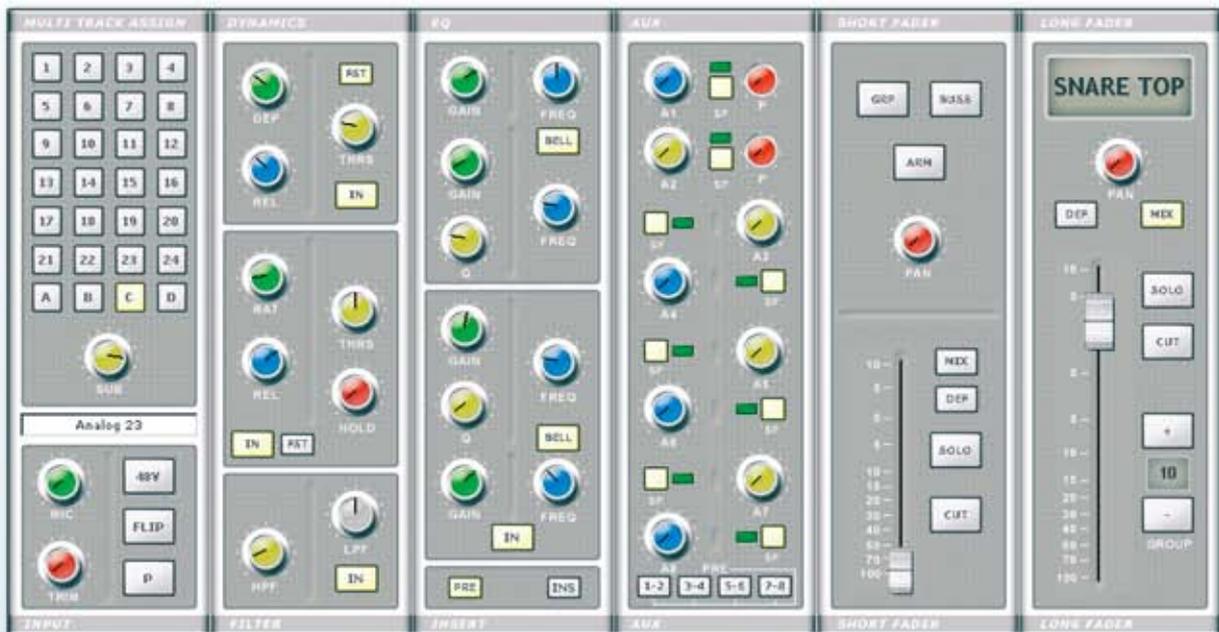
**Classic In-line mode**



**Constellation-XT mode**



Split Mode channel graphic



In-Line Mode channel graphic



Constellation-XT Mode channel graphic

## フル装備システム

Anthemは最大230チャンネルを最大72ミックスバスエレメントにルートすることができます。この72バスエレメントのプールはメインバス、8つのサブバス、12のオグジュアリーセンドの間で分けたり自由にアサインすることができます。そのいずれもユーザーによってモノから7.1までにアサインすることができます。また最大24のモノマルチトラックバスも利用可能です。8バンドEQと3ステージダイナミクスプロセッサは最大230チャンネルで同時に使うことができます。パワフルなバスシステムは一般的なマルチサウンドフォーマットとマルチミックスシステム世代のバス対バスミキシングを可能とします。

物理I/Oはアナログ、SPDIF、AES、MADIフォーマットで利用でき、洗練された内部パッチングシステムによって外部と内部の行き先間でまったく自由に入出力及びバスのルーティングを行うことができます。

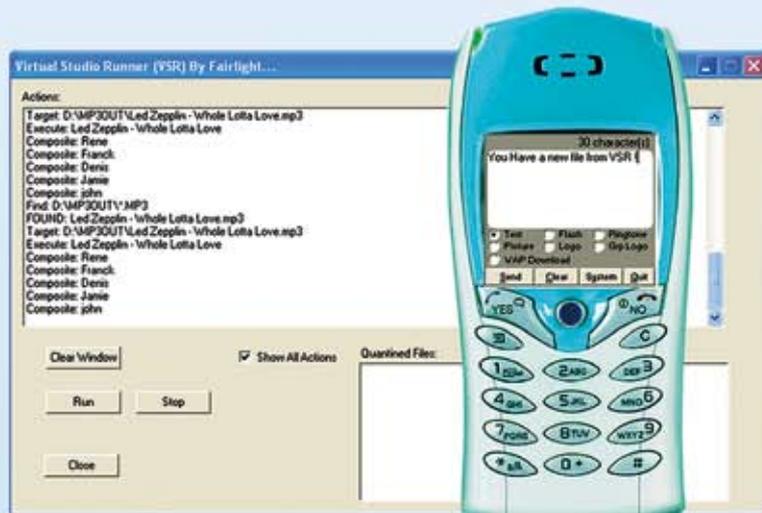
モニタリングシステムはプログラム可能なフォルドダウン/フォルドアップモードで完全にコンフィギュアすることができ、最大9つのスピーカーセットの切り替えを瞬時に行うことができ、それぞれを好きなバスフォーマットに設定することができます。

## 拡張仕様

Anthemは革命的なCC-1エンジンとSX-20 HD Sync IOシステム、オプションのSX-48 modular IOを搭載したコントロールサーフェスのセットで構成されています。Anthemはシャシサイズの範囲で選択することもでき、それぞれフェーダーパネル、インラインパネル、チャンネルアサインパネル、エディターパネル、チャンネルセレクトパネル、メーターブリッジの選択で構成することができます。システム設計はフェーダーアサインメント、パネル角度、バス構成、ダイナミクス操作、パンニング、オグジュアリー、その他たいの主要な機能などたいの機能でユーザーがオプション構成することが可能です。Anthemの独自設計の心臓部はチャンネルコントロールとコンフィギュレーション設定にチャンネルごとからあるいは中央のコントローラーから全体的にのどちらからでもアクセスできる点にあります。Anthemの拡張コントロール機能はムービングタッチセンスフェーダーが搭載され、OLEDディスプレイをマルチ機能ノブとスイッチで拡張使用して最大限のアクセス性とオートメーションシステムなどのすべての機能の視覚化が可能となっています。

## Virtual Studio Runner

MP-3や非圧縮のAIFF, WAV, B'WAV, OMF1+2, AAF, PT5.0, AES-31のPremix承認ファイルをやりとってセッションに置くことはフェアライトのVirtual Studio Runnerオプションでより簡単になります。Virtual Studio RunnerはVirtual In/Out mail-boxとオフラインアーカイブ能力をスタジオ環境のAnthemに与えます。フェアライトのMediaLinkサーバー技術をホストとして使うことで、システムは自動的に入ってきたファイルを検出してAnthemのコントロールパネルのインターフェースを直接使うだけでセッションに挿入することができるようにしてくれます。ソフトウェアはAIFF, WAV, B'WAV, MP3, OMF1+2, AAF, ProTools5.0, ES-31で入ってくるファイルを検出し、洗練されたデコード/エンコードエンジンを使って自動的にセッションで使えるようにします。さらに、オペレーターはStudio Runnerメール送信システムによって登録されたアドレスにファイルを送ることができます。この場合、オペレーターは統合されたディスクレコーダーで必要なオーディオトラックをポイントし、いくつかのプリセットされたバスとフォーマットでオーディオを「送信」します。これらのフォーマットにはエンコードされたMP3ファイルとしてEメール添付もあり、自動的にスタジオまたはクライアントのFTPサイトに送信あるいはファイルをダイレクトにシステムに登録されたCDまたはDVDドライブに焼き付けることもできます。Virtual Studio Runnerは自動的にSMSテキストメッセージを使って彼に使えるファイルとしてコンタクト(クライアント)を通知することもできます。スタジオオペレーターがさらなるクオリティ保証を要求する場合、プレビューモードによってオペレーターはファイルを行き先のQAメールボックスに送ってそこでコンタクトに配達する前にチェックすることができます。



また Virtual Studio Runner(VSR) は AIFF, WAV, B'WAV, MP3, OMF1+2, AAF, PT5.0, AES-31 ファイルを検出し、DREAM サーフェースで直接単純なインターフェースにて DREAM セッションへの挿入挿入が可能になります。個々のボックスは各スタジオ基準または施設全体のアクセスにグローバルに構成できます。

VSR は VSR と VSRxtreme の 2 バージョンで利用できます。VSR は AIFF, WAV ファイル変換を含みます。VSRxtreme は OMF, AAF, AES31, ML4 フォーマットを加えます。各々の DREAM クライアントは VSR または VSRxtreme のためにライセンスを必要と必要とします。

## オートメーション

Anthemの包括的なオートメーションシステムはプロセッシング、ルーティング、サードパーティプラグインなどを含むあらゆるオンボードファンクションのパラメータを網羅しています。

オートメーションシステムは単にナビゲートとオペレートです。モーター駆動のタッチセンスフェーダーとノブはすべてのパラメータの現在値を明確に示し、コントロールに即座に直接アクセスすることができ「見てポン」で修正することができます。

オートメートするパラメータを選択するのはシンプルなインタラクティブセレクションプロセスで簡単に行えます。1つのフィードの1つのパラメータを選択してトランスポートの上部にある専用のオートメーションエネーブルボタンを押して書き込みやアップデートすることができます。同様に、フィードまたはバスの選択はセレクションキーを使って行え必要なパラメータがその設定に使えます。このアプローチは複雑なコントロール選択を簡単にし、ミックスデータを守りオートメートされたミックスを手軽に修正することができます。

Anthemのオートメーションにはオートメーションデータの書き込みやアップデートにいくつかの方法があります。オペレーターはオートメーションをパンチイン/アウトすることができ、IN/OUTキーを使ってマニュアルで記録することができ、IN/OUTキーはまたオートメートされたドロップインのためにIN/OUTポイントを設定するのに使うこともできます。タッチモードはオートメーションをフェーダー、ノブ、ボタンをタッチするだけに行うことができます。すべてのモードは調節可能なGlide Outをサポートし、新旧のオートメーションデータ間の移行をスムーズに行えます。新しいオートメーションデータは絶対値で書き込んだり現在値に相対的なトリムオフセットを与えて調節したりすることができます。



## 統括

Anthemはハイエンドオートメーションとプロセッシングを実現した完全装備のデジタルオーディオミックスコンソールで、熟練したユーザーが多くの普及型ハイエンド音楽/ポストミックスコンソールにある慣れ親しんだ操作モードを利用することができます。Anthemは最大7.1チャンネルのミックスと再生に対応しています。さらに、Anthemには完全統合された192トラックディスクレコーダー/エディターとオプションの統合されたHDピクチャも含まれています。

## Anthemハードウェア機能

Anthemのサーフェスレイアウトには人間工学的な作業環境が用意されています。オペレーターから遠く離れたコントロールはひとつもありません。コントロールパネルはOLEDディスプレイが埋め込まれていてバックライトノブとボタンの包括的な使用によってチャンネルステータスが一目でわかるようになっています。バスやI/Oパッチングへのチャンネルアサインメントの視覚化は簡単ではありません。フェーダーセットボタンはユーザーが信号を便利なグループのフェーダーにマップするのに使うことができます。Anthemのオプションのチャンネルアサインパネルは独自のタッチセンスモーター駆動ロータリーエンコーダーを備えています。各ロータリーポットには3色のLEDディスプレイがその基本にあります。LEDはコントロールがレコーディングの場合は（赤）、オートメートされている場合は（緑）、トリムモードにある場合は（橙）を示すのに使われます。

### Anthem Master Control Panel (MCP)

Anthemのマスターコントロールパネルはすべてのトランスポート機能、オートメーションシステム、ソロ/モニタリングファンクション、トークバックセクション、Anthemフェーダー/メーター管理システム、スピーカーセレクション、マクロ、プロジェクト管理、virtual studio runner、メーターセレクション、エディティング機能にアクセスするために用意されています。さらに、マスターコントロールセクションはマスターTFTディスプレイのアロケーションをコントロールすることができます。ジョグ/シャトルホイールは正確なトランスポート移動を可能にし、数字キーパッドは包括的なオートロケートシステムをサポートするために用意されています。トラックとオートメーションアミングはパネルの中央部にあるメイントランスポートキーから実行します。大型の中央にあるLCDディスプレイはすべてのエディティングとプロジェクト/ファイル管理機能をサポートするのに使われます。プレイメニュー機能を持ったトランスポートマクロシステムもメイントランスポートキーの隣に用意されています。Anthemの包括的なオートメーション可能なマトリックスもメイントランスポートキーの上でサポートされています。



### Anthem In-Line Panel (ILP)

Anthem In-Line Panelの目的はチャンネルフェーダーの隣にフィルター、インプットセッティング、パンニング、プラグインのコントロールのセットを配置するためのものです。AnthemのIn-Line panel (ILP)にはそれぞれにIn/Outスイッチと隣接OLEDディスプレイを持った72のタッチセンスロータリーエンコーダーがあります。各チャンネルストリップは個別にアサインしてチャンネルの入力、EQ、ダイナミクス、AUXセンド、パンニング、プラグインをコントロールすることができます。パネルの下にある9つのボタンによってユーザーは単にオペレーションをダブルクリックするだけでパネルの選択した機能を全体的にアサインすることができます。下の2つのエンコーダーはインラインコンソールとして操作されるときショートフェーダーとパンコントロールに配置でき、チャンネルフェーダーに隣接したソフトキーによってフェーダーフリップファンクションがサポートされています。

“Fat Channel”モードはILPパネル全体を「呼び込まれた」チャンネルの取り扱い可能なパラメータすべてをコントロールするのに用意されています。これは効果的にパネル全体をアサイン可能なパネルとして配置転換します。エネーブルボタンでオートメーションにアクセスすることもでき、3色のLEDはすべてのノブとスイッチに用意されオートメーション状態を示します。さらに、オペレーターはノブをダブルタップして隣左右のチャンネルをコントロールすることができます。EQの場合、Hi Mid周波数コントロールのダブルタップでQと周波数コントロールをノブの横隣に置くことになります。



### Anthem TFT Display Panel and Touchscreen interface (TFT)

AnthemのTFTディスプレイはマスターコントロールパネルの上に便利に位置しており、ユーザーの要求する視覚角度を調整できるようになっています。TFTパネルからルーティング、物理的I/Oの管理などすべてのコンソールパッチング機能を実行します。チャンネルパスとチャンネルセッティングのグラフィカルな表現もされています。オートマチックズーム機能によってオペレーターはチャンネルごとのベースでEQ、ダイナミクス、パン、オグジュアリー、プラグイン、インプットセッティングを質問することができます。TFTパネルの隣に搭載されているのは、ジョイスティックパンナーコントロールとクイックキーのセットで、ディスプレイ上のアプリケーションを切り替えることができます。



## Anthem Fader Panel (DFP)

各Anthemフェーダーパネルは12のモーター駆動タッチセンスフェーダーとパンニングのためのモーター駆動ロータリーコントロールをサポートしています。ソロとミュートボタンはフェーダーの上にあります。フェーダーの上のOLEDディスプレイは信号の名前を表示します。レベルとパンポジションも表示されます。Callボタンはチャンネルを中央のアサインパネルに送ります。インラインミックスモードにあるときSoftボタンをオートメーションに挿入してフェーダーを返します。Autoボタンはチャンネルでオートメーションのパンチインに使われます。フェーダーの上のLEDインジケータはメイン、サブ、マルチトラックバスへのチャンネルバスアサインメントを示します。フェーダーがトラックフィードに使われている場合、LEDはトラックのARMステータスも示します。フェーダーの左のLEDはTouch, Latch, Safe, Read, Write, Trimのようなオートメーションモードを示します。他のLEDはチャンネルが、信号が存在するトラック、フィード、バスのどれであるかを示します。インサート、EQ、ダイナミクスが使用中の場合これらも示されます。



## Anthem Channel Assign Panel (DCAP Optional)

Anthemチャンネルアサインパネルは5つのセクション（インプットコントロール、ダイナミクス、EQ、オグジュアリーセンド、サラウンドパンコントロールモジュール）に分かれています。インプットコントロールはレベルフェイズ、インサート、I/Oパッチ、プラグイン、バスアサインメントのようなシグナルフローパラメータにアクセスします。ダイナミクスセクションはゲートとエキスパンダー/リミッターを含むチャンネルの2つのステージのダイナミクスプロセッサをコントロールします。6バンドイコライザーコントロールはパネルの中央にあります。EQの各バンドはフィルタータイプと専用レベル、周波数調整の切り替えができます。オグジュアリーセンドパネルは12のオグジュアリーすべてのレベルセンド調整をコントロールします。Aux1-4には専用のコントロールがあり、5-12は2つのセクションの切り替えができるようになっています。オグジュアリーはモノから7.1までのバスタイプをフィードすることができるようになっています。使用中の場合、パンボタンはthe Left RightまたはFront Backの変化によって各バスエレメントに送られるレベルを変化させるためにまわすことができます。オートメートされたIn/OutとPre/Postフェーダー切り替えも可能です。サラウンドパンナーモジュールはロータリーコントロール機能と同様ジョイスティックコントロールがSpread, Diverge, Rotate, Boomチャンネルのために用意されています。



## Editor Panel (DEP Optional)

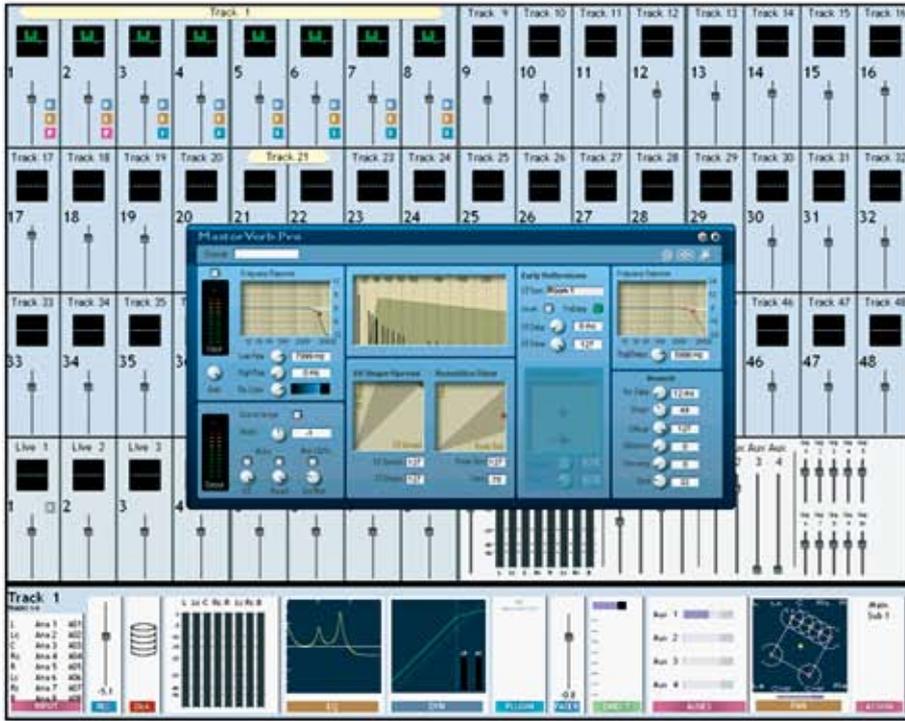
ツーマンオペレーター（エディター、ミキサー）が必要な場合、専用のエディターパネルをコントロールパネルの可能なスペースあるいはオプションのスライドカーシャシに装着することができます。Fairlight Binnacleコントローラーの搭載に加えて、エディターパネルはトランスポート機能、マクロ、オートロケート、数字入力機能、プロジェクトメニュー、トークバック、モニタースピーカーセクション、アサインブルマスターフェーダーの専用コントロールとなります。パネルの中央のLCDスクリーンはエディットモード、Virtual studio runner, トラックバンク切り替え、プロジェクトナビゲーション、システムセットアップ/セッティングなどの詳細メニュー機能にアクセスすることができます。パネルはDREAM Satelliteシステムのすべての機能性を備えています。トークバックセクションはボタンを一度押すだけで2つのトークバック先にアクセスして簡単にサブやオグジュアリーなどのバスタイプの切り替えを行うことができます。専用のマクロパッドは3バンクの9ユーザープログラム可能マクロにアクセスすることができます。



エディターとチャンネルセレクトパネルにオプションのシングルベイスライドカー“WOMBAT”を装着したもの

## Channel Select Panel (DCS Optional)

チャンネルセレクトパネルによってライブフィード、トラック、リターン、バス、スピーカーセットなどすべての可能な信号に簡単にアクセスすることができます。各切り替えによって3色LEDランプの点灯または点滅で現在の状態と選択されたモードを明確に示すようになっています。スピーカーセット切り替えは9つのスピーカーセットのいずれかに簡単にアクセスできます。バスアサインメント、バスフォーマット、リンクグループ、I/Oパッチング、ステムアサインメント、外部チャンネルのためのセットアップ切り替えも用意されています。フェーダーセット切り替えはユーザーが信号を最大10の組み合わせでコントロールパネル上のフェーダーにマップすることができます。専用のスイッチによってオーディオはFairlight Binnacleを使ってオートメーションと一緒にエディットすることができるようになります。



## Plug-ins

AnthemはフェアライトのオーディオブリッジでVSTプラグインとReWireアプリケーションへのオープンな連結をサポートします。最大64チャンネルのプラグインとReWireソースは平行してConstellationに入力でき、フェアライトの革命的なCC-1エンジンはホストPCにオーディオ処理をさせない設計となっているので、Anthemユーザーは他のシステムでは真似のできない数のプラグインとReWireアプリケーションを同時に動かすことを可能にします。プラグインはスクリーン上のグラフィカルインターフェースから、またはConstellationコントローラーのフェーダー、ノブ、スイッチによっても操作可能です。Anthemハードウェアコントロールはリアルタイムにプラグインパラメータをダイナミックオートメーションすることができ、プラグインとReWireセッティングはそれぞれのフェアライトプロジェクトで保存され、記憶されます。フェアライトのオープンな連結性は多種多様なサードパーティツールのインターオペラビリティを可能にし、セッションごとで完全な創造的自由を提供します。

## イコライザー

各チャンネルには完全な8バンドのイコライザーが備えられています。Anthemは各機能に専用のコントロールが用意されています。1と6のバンドはシェルビングとロウ/ハイパスの切り替えが可能です。他の4つのバンドはシェルビングレスポンスを含む完全なパラメトリックです。EQセクションには独自のレベル補償コントロールがあり、各バンドは個別にオートメーションでインアウトの切り替えをすることができます。

## パンニング

パンニングは個々のモノフィードまたはマルチフォーマット“Constellation”チャンネルに対応できます。Divergenceコントロールは1つのエレメントから可能な出力に分けられるエネルギー量に影響を与えます。Constellationチャンネルの場合、2つの特別なコントロールが使えるようになります。“Spread”コントロールはパンコントロールで送られる信号の幅に影響を与えます。“Rotate”コントロールはリスナーがその場でまわっているかのようにサウンドフィールド全体を文字通りまわします。サブバスまたはブームチャンネルはパンナー内の個々のレベルコントロールで用意されています。

## オグジュアリーセンド

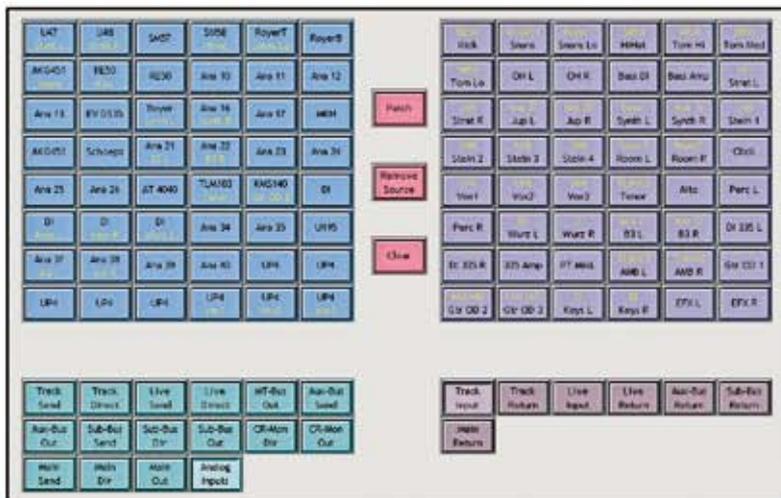
Anthemの12のオグジュアリーセンドはインラインパネルから2つのバンクのロータリーコントロールでアクセスされます。パネルの下にある専用のボタンは各チャンネルごとの必要に応じてAuxセンド1-6と7-12にアクセスします。12のオグジュアリーバスのそれぞれはステレオから7.1までのマルチチャンネルフォーマットに定義することができます。各センドのロータリーコントロールはセンドレベルまたはパンニングをコントロールすることができます。

## ダイナミクス

2つの独立したダイナミクスセクションが用意されています。1つめはスレッシュホールド、レベル、コンプレッションレシオ、アタックタイム、リリースタイム、ホールドタイム、ゲインメイクアップのコントロール完全装備のコンプレッサーです。2つめのダイナミクスセクションはリミッター、エキスパンダーまたはゲートとして使うことができます。リミッターはスレッシュホールドレベル、ゲインメイクアップ、アタック/リリース/ホールドタイムのコントロールをします。エキスパンダーとゲートはスレッシュホールドレベル、エキスパンションレシオ、リダクションデプス（レンジ）、アタック/リリース/ホールドタイムのコントロールがあります。

## パッチングとアサインメント

エレクトロニックリモートパッチングとルーティング作業は直感的なコントロールパネルタッチスクリーンインターフェイスで簡単に実行されます。I/Oパッチングは全体的に柔軟性があります。Anthemシステムはアナログとデジタル両方のクロスポイントスイッチングシステムを搭載しています。実際のスタジオコンフィギュレーションを簡単なユーザー開始あるいはミキサーステートリコールによって完全に転送することができます。パッチングはシングルインプットとチャンネルまたは複数のチャンネルで同時に実行することができます。



### フィードへのパッチングインプット

インプットパッチング操作は最初に行き先のフィードを選んでからインプットソースを選ぶことによって実行されます。Anthemは中央のTFTにデジタルインプット、MADIチャンネル、アナログインプットのための別々のセレクションキーを配置しています。直感的なボタン点滅設計によって現在のパッチコンフィギュレーションが即座にわかるようになっています。インプットスプリットは簡単に実行できるようになっています。Anthemは物理的インプットを複数の行き先に同時に接続できるようになっています。

### バスエレメントのフィードへのパッチング

バスエレメントはトラックまたはライブフィードのいずれかに内部的にパッチすることができます。行き先のフィードが最初に選択してからバスが選択されます。

### アウトプットのパッチング

バスアウトプットはインプットパッチングと同じ方法で物理的な出力にパッチすることができます。おなじみのイルミネーション設計が用いられユーザーにI/Oから選択されるのを示してくれます。マルチチャンネルバスは予め定義された順番でタッチスクリーンインターフェイス上の連続した操縦で出力のグループにパッチすることができます。バスは複数の行き先に送るためにいずれかのタイプのいくつかの物理出力にパッチすることができます。

### バスフォーマットセレクション

バスフォーマット選択はMono, Stereo, LCR, Dolby Surround (LCRS), 5.0, 5.1, 6.1, 7.1の予め定義された標準の中の1つから単に選択するだけで実行されます。

### オートマッチックバスリダクション

オートメートされたマルチフォーマットプロダクションは進化したサラウンドミキシング設計によって簡単に行われます。バスがメインバスの下方のサラウンドフォーマットで定義されている (たとえば、メインバス-7.1、サブバス-ドルビーサラウンド) 時、システムは自動的にメインバスでのパンナーポジションを基本としたそのバスにダウンミキシングします。これらのリデュースされたバスミックスはメインバスのパラメータデータを基本としますが各ミックスのために個別にトリムすることもできます。すべてのパラメータはすべてのミックスのためのオートメーション書き込むことができます。この柔軟性によってサラウンドミックスは同じミックスプロジェクト内で各デリバリーフォーマットに対して迅速に適正化されるすることができます。

### アサインメント

アサインメントは行き先のバスを選択してからソースフィードまたはサブバスを選択するだけで実行されます。おなじみのボタンイルミネーションによってユーザーが導かれ、可能なフィードから選択するか既存のルーティングを修正します。ソースフィードは専用キーを押して現在の選択のイン・アウトの切り替えをすることができます。グループ内で最初のを押しながら最後のものを押すことで複数の選択を簡単にを行うことができます。

“ステムアサインメント”はユーザーが行き先のバスのすべてのエレメントあるいはサブセットのみのどちらかに与えられたフィードを送るかを決めることができます。指定したフィードはの場合特定のバスの行き先 (たとえば5.1ミックスバスのセンターエレメント) の適切な場所へ送ることから除外されます。

## Key Features

### Definitions

#### フル装備のチャンネル

- ・最大8バンドのパラメトリックEQフルレンジ20Hz-20kHz
- ・3ステージダイナミクス(コンプレッサー、ゲートエキスパンダーまたはリミッター)
- ・12のオグジュアリーセンド(ユーザー定義モノ-7.1)
- ・1つのマスターミックスバスと最大8つのメインバス(ユーザー定義モノ-7.1)
- ・24のマルチトラックバス
- ・コンフィギュア可能なインサート

### Anthem Mix Modes

#### Traditional Split Mode

- ・最大48の完全装備入力チャンネル
- ・最大172の完全装備モニター(リターン)チャンネル
- ・ミックスに対して合計で最大220チャンネル
- ・24のマルチトラックバス
- ・12のオグジュアリーセンド
- ・1つのマスターミックスバスと4つのメインバス
- ・最大192トラックの統合ディスクレコーダー

#### Classic In-Line Mode

- ・最大96の完全装備チャンネル
- ・最大96の完全装備モニターリターンチャンネル
- ・ミックスに対して合計で最大192チャンネル
- ・24のマルチトラックバス
- ・12のオグジュアリーセンド
- ・1つのマスターミックスバスと4つのメインバス
- ・最大192トラックの統合ディスクレコーダー

#### Constellation Mode

- ・最大192トラック統合ディスクレコーダー
- ・最大230の完全装備チャンネル
- ・ミックスに対して合計で最大230チャンネル
- ・24のマルチトラックバス
- ・12のオグジュアリーセンド
- ・最大72ユーザー定義ミックスバス
- ・8つのマルチフォーマットサブバス
- ・1つのメインミックスバス

### Anthemオプション

- ・ビデオキャプチャつきPyxis統合ノンリニアビデオシステム
- ・96,144もしくは230チャンネルCC-1エンジン
- ・ADRオプション
- ・オートマチックエレクトロニックファイルインポートとデリバリーのためのVirtual Studio Runner Xtreme
- ・AV Transferファイル変換ソフトウェア
- ・Pyxis HDノンリニアビデオシステム
- ・UP4マイクプリアンプ
- ・プロデューサーデスク

## Anthem 一般仕様

- ・最大230チャンネルミックスエンジン
- ・最大212物理I/O
- ・モノ-7.1の最大72ユーザー定義可能なバス
- ・モノ-7.1の“Constellation”チャンネルコンフィギュレーション
- ・最大8つのマルチフォーマットメインバス
- ・24マルチトラックバス
- ・サブバス対バスミキシング
- ・複数サラウンドフォーマットの同時ミキシングのためのバスリダクションシステム
- ・ユーザー定義可能なモノ-7.1の12オグジュアリーセンド
- ・包括的SoloシステムAFL, PFL, SIP
- ・包括的マトリックス可能なハイエンドオートメーション
- ・直感的タッチ知覚オートメーションモード
- ・フィルターを含むすべてのコンソールパラメータのオートメーション
- ・3ステージダイナミクスプロセッシング
- ・8バンドEQフルレンジ
- ・4バンドクリップベースEQフルレンジ(ディスクレコーダー)
- ・最大192トラック統合ディスクレコーダー
- ・クリップ、トラック、レンジベースのエディットのためのオーディオエディティング追従オートメーション
- ・オートメーションを含むパワフルなアンドゥ/リドゥ構造
- ・タッチセンサモーター駆動フェーダーとロータリーコントロール
- ・包括的マルチフォーマット3Dサラウンドパンニング
- ・オートメーションパラメータのイルミネートされたステータス
- ・包括的モニタリングオプション
- ・カスタムコンフィギュレーションのためのユーザープログラミング可能なマクロ言語
- ・バス/テープモニタリングシステム
- ・統合されたVSTとReWireプラグインサポート
- ・既存ITインフラ内のプラグとプレイネットワーク
- ・テープレスワークフローのためのオープンファイルインターチェンジ
- ・合計72フェーダー装着のための9ベイシヤシス装備サポート
- ・ビデオキャプチャをもつオプションの統合されたPyxis HDノンリニアビデオトラック
- ・環境にやさしい

### SX-20仕様

- ・ サンプルレート: 44.1, 48, 96, 192 kHz (+4.1667%, +0.1%, -0.1%, -4%)
- ・ 最大入力, inputs 1-2 (Mic): +0 dBu
- ・ 最大入力, inputs 1-2 (Inst): +24 dBu
- ・ 最大入力, inputs 3-4: +24 dBu
- ・ ゲインレンジ, inputs 1-2 (Mic): 50 dB (0dBu to -50dBu 最大入力)
- ・ ゲインレンジ, inputs 1-2 (Inst): 50 dB (+24dBu to -26dBu 最大入力)
- ・ Mic EIN (unweighted): 125dBu @ max gain, 150 ohm source, 20Hz - 20kHz
- ・ 入力ダイナミックレンジ, inputs 1-2: 101dB at max gain (unweighted)
- ・ 入力ダイナミックレンジ, inputs 3-4: 109 dB (unweighted)
- ・ THD+N Mic 入力: 0.001% @ 1kHz, -1dBFS after 0 dB gain
- ・ THD+N Mic 入力: 0.002% @ 1kHz, -1 dBFS after 25 dB gain
- ・ THD+N Line 入力: 0.00% @ 1kHz, -1 dBFS
- ・ 入力周波数周波数レスポンス: +0.05 / -0.15 dB, 20 Hz - 20 kHz
- ・ 入力インピーダンス, inputs 1-2 (Mic): 2k Ohm
- ・ 入力インピーダンス, inputs 1-2 (Inst): >1M
- ・ 入力インピーダンス, inputs 3-4: 15k Ohm
- ・ 最大出力, outputs 1-12: +24 dBu
- ・ 出力ダイナミックレンジ, outputs 1-12: 109 dB (unweighted)
- ・ THD+N, outputs 1-10: 0.0010% @ 1kHz, -1dBFS
- ・ THD+N, outputs 11-12: 0.0013% @ 1kHz, -1dBFS
- ・ 出力周波数周波数レスポンス: +0.05 / -0.05 dB, 20 Hz - 20 kHz
- ・ 出力インピーダンス, outputs 1-12: < 150 Ohm
- ・ 4 SPDIF 入力, 8 SPDIF 出力 - unbalanced

### Sync

- ・ ワードクロック入力 / 出力
- ・ SD/HD BiLevel, TriLevel ビデオシンク入力
- ・ デュアル 9 Pin マスター / スレーブマシンコントロールポート
- ・ SMPTE タイムコード In/Out

仕様は予告なしに変更されることがあります。

### Distributed by:

株式会社 フェアライトジャパン

〒154-0001 東京都世田谷区池尻 3-3-11  
Tel: 03-5432-4151 Fax: 03-5432-4533

[www.fairlight.co.jp](http://www.fairlight.co.jp)

